#### 大相模地区東部の歴史

加藤幸一

#### 1. 南百村の歴史

#### ア. 南百の百万遍

越谷市内の吉川橋を渡る手前は、江戸時代は南百村と呼ばれていた地域である。現在の東町の北部にあたる。「南百」という字を初めて見る人は、「なんびゃく」とか「みなみもも」などと読みがちであり、「なんど」と正しく読むことは皆無であろう。これは江戸時代からの地元独特の読み方である。なぜこのように読むに至ったかについては、未だ謎のままである。

一方、「南百」の地名の由来に関しては、戦後まで地元の古老の間で受け継がれてきたという言い伝えがある(高崎力氏)。吉川橋の東、現在の南百農村センターの南西隣に広大な敷地(東町二丁目一三三)が残っていて、遠い昔はここに「お屋敷」があったとされ、そこには楠(くすのき)と柏(かしわ、ここでは栢)の大木がそびえたっていて、船頭の目印になったという。この二本の木の名前の漢字のうち木へんをそれぞれ除いて、それを「南百(南白)」との村名にしたという興味を引く言い伝えである。真偽はともかく、後世に残しておきたい伝説である。

南百の村名の由来には他にも二つの説がある。かつては「難渡」と書かれ、元荒川と古利根川(中川)の合流地点にあったために渡るのが難しかったから名付けられたとの説、

「渡(ど)」とは「渡し」という意味ではなく、二つの川が合流する地点という意味で、つまり二つの川が南に合流するところを意味していたとの説である。謎が謎を呼び、ロマンが駆り立てられる。

この南百には他には見られない大変独特な祭りが見られた。古くから毎年七月十八日に水神社の祭札として行われる「百万遍」の行事である。一般的な「百万遍」念仏とはかなりかけ離れた奇祭と言える。現在は十八日にこだわることなく七月の第二日曜日に変更されている。

現在見られる新築の水神社は、もとあった元荒川沿いの右岸の場所から移転してきたものである。もとあった本来の場所は、吉川橋と中島橋の中程の吉川県道沿いであった。その古い水神社の建物の屋根には、竜の鏝絵【写真1】が棟に沿って大きく描かれていた。古利根川(現・中川)の水流に逆らって泳ぐ竜(水神様)が見られる。頭を進行方向の反対側に振り向き、頭のそばの右手が描かれ、しっぽの先端はよじれている。今日の文化財にも匹敵する程の大作であり、それを短時間で仕上げた左官職人の技術の高さが窺える。残念ながら水神社の建物を取り壊す時に破損したために処分されてしまった。平成十七年(二〇〇五)頃のことであった。

七月に実施する恒例の水神社の「百万遍」の祭りに向けて、四月にまず「蛇縒り」の行事が行われる。藁を蛇の形に縒った注連縄作りである。全長は約七~八メートル、太さは約三十センチ、頭部の二本のそれぞれの角の長さは八十センチである。その日のうちに完成させ、水神社の社前に奉納される。社前の左右両側にケヤキとイチョウの木がある。二本の角が生えた竜を、頭をケヤキ側(西向き)、しっぽをイチョウ側(東向き)に架けて設置した【写真2】。本来は四月二十一日に行われたようであるが現在は四月の日曜日となっている。百万遍が行われる七月十八日まで祀られる。七月十八日の朝には、さらに直径三メートル程もある太縄の輪を藁を縒って作る。その出来上が

った藁の輪を若者たちが持って百万遍の行事が始まるのである。藁で作った大きな輪は、百万遍に

使われる数珠の代わりとしたものであろう。百万遍の数珠の功徳を大きな藁の輪に代え、それを若 者達が村内を一軒一軒持ち歩いて廻り、家内安全を祈ったのである。

百万遍の行事は朝から開始される。数人の若者が大きな藁の輪を持ち歩く。最初は屋号が「医者さま」と呼ばれた鈴木家から始まり、南百の地元三十数戸を鉦や太鼓で賑やかに巡る。各家の土間に入り、何人かで持った大きな藁の輪を土間の中で持ちながら時計回りにぐるっと一回りして終わる。最後に一本締めをして五穀豊穣を祈る。村内を巡回する時は年配者がてんびん棒に吊り下げられた鉦や太鼓などの鳴り物を打ち鳴らしながら巡回する。その時、藁の輪と同じくらいの大きさの大数珠も他の年配者が持ち歩いた。通りに人がいると大きな大数珠をその人の頭に軽く載せて疫病除けをした。巡回の途中から若者は羽目を外し始め、若者同士が隙あらば家の台所にある鍋釜の墓を塗ったり、冷たい井戸水をかけあったりした。顔や体全体が墨だらけになる程である。各家にいる子供たちはその姿を見て怖がったそうである。最後に西耕地(「西の妻」とも呼ばれ、元の場所から移転してきた現在の水神社あたり)の用水べり(現在の水神社の東側の堀)に集まり、相互に隙をみては堀や田んぼに突き落としたり、中には両手と両足を取られてそのまま水平に堀や田んぼの中へ投げられる者もいた。そのため俗に「どろんこ祭り」とも呼ばれた。

百万遍の行事が終了すると、社前の蛇縒りは外され、蛇縒りと村内の巡回に使った藁の輪を吉川橋から中川の下流に流して終了した。

下流側の川の中で待ち構えていた若者達が、橋から落とされた蛇縒りと藁の輪を川の中ですぐに解体し、蛇縒りの芯として使われていた竹のみを回収する。藁はそのまま下流に流されていった。しかし下流の岸を汚すため、のちに吉川橋から蛇縒りや輪を川に流すことは取りやめになった。そして、水神社の境内で解体するようになった。

この百万遍の祭礼は蛇縒りと輪を川に流して終わるのである。百万遍の数珠は巡回中に年配者が持ち歩くだけであるが、昔は全員で集まって「大数珠」(百八つの十倍の数の千八十個の玉からなる)を順繰りに回す本来の百万遍の行事が行われていたのであろう。流し終わった後は、各自が自宅に戻る。泥まみれの若者は風呂に入る。そしてお昼に集会所(現在の南百農村センター)に集まり、酒と精進料理が振る舞われる直会が始まるのである。

この地独特の百万遍は、無形文化財的観点からして他の地域に類をみない異彩を放った行事であり、手の凝った蛇縒り作りも地元の誇りとして残したいものである。

なお、この百万遍の行事と同時並行して行われる行事に「辻札」がある。東町二丁目の豊田家では、古くから香取市山倉の山倉山観福寺のお札をいただきに毎年参拝する。その山倉様のお札は、南百村鎮守の水神社の祭礼のお札として使われる。四月に「蛇縒り」(竜の形をした注連縄)作りの時に蛇縒りの太くなった中央部に取り付けられる。それとともに他のお札を竹の最上部に挟んだ辻札を村の周囲の六カ所に立てて設置し、外からの外敵を村の中に入らないようにしているのである。七月十八日の百万遍の巡回の時に六ケ所の辻札は順次取り払われる。六ケ所の辻札が設置される所は、飯島辻、西の妻辻、苗間辻、四条辻、吉川橋辻、中島橋辻である(地図「辻札設置場所」)。

村を悪霊の侵入から守るために行う辻札の行事は、今もなお続けられている。無形文化財的観点からしても百万遍念仏の行事とともに後世に残しておきたいものである

調查協力者 豊田武司氏、浅見照男氏、豊田潔氏

写真1 竜の鏝絵(上は屋根の棟に沿って見られる竜、下はその拡大) 写真提供は曽根憲次氏





写真 2 社前の注連縄「蛇縒り」 向かって左はケヤキ、右はイチョウ 写真提供は豊田武司氏



#### +地図「辻札設置場所」(六ケ所●)

百万遍の順番 1. 飯島辻 2. 声の妻辻 3. 苗間辻 4. 四条辻 5. 吉川橋辻 6. 节島橋辻



番号は辻札設置場所、太線は現在の古道及び失われた古道跡、波線は水路

作成にあたっては「ゼンリン住宅地図 2006 12」を使用

# イ. 南百村の豊田家の「山倉さま」

山倉様は、現在は千葉県香取市山倉にある山倉山観福寺に祀る神様である。

過去においては、「第六天王宮」(大六天王宮)、「皇産霊神宮」などと称されていた 社 に祀られていた神様である。

※出典 平野 馨/谷川 健一編(1984)『日本の神々 神社と聖地 11 関東』白水社 p. 294-296 下の写真(加藤幸一撮影)は、越谷市 東 町 2 丁目の豊田家の祠の中に祀られている白馬の上に乗る武人姿の「山倉様」である。刀の先がなぜか曲げられている。本来は直刀だったのであろう。

#### 白馬に乗る「山倉さま」



#### 「山倉さま」の尊顔





道路に面した山倉様の祠

※山倉様のお札は南百村鎮守の水神社で4月に行なわれる蛇縒りの注連縄に付けられる。

なんど すいじん

ウ. 南百の水神社・・・南百村の鎮守。元は他の場所にあった。吉川県道沿いの中島橋と吉川橋の中程にあった。

なお、この水神社の裏にも、かつては元荒川と並行した古道があった。

- ちょううんじ
- エ. 長運寺跡地・・・江戸時代にあったお寺。

しちろべえ

オ. 南百の不動堂・・・長運寺の不動尊像を祀る。元は長運寺跡地。

武州吉川組が中心になって始められた「弘法大師二十一箇所巡礼」の二十番にあたる 南百の宝性院の弘法大師坐像の石像が祀られていた。現在は行方不明。

- カ. 宝 性 院 跡・・・江戸時代、ここに宝性院というお寺があった。現在は墓地のみである。 現在はこの墓地は柿ノ木の東漸寺が管理している。
- キ. 南百村名主の中村七郎兵屋敷跡・・江戸時代、ここに南百村の名主の家があった。 また、近くには、屋号が「お医者様」(鈴木家)と呼ばれた家がある。
- ク. 南百村の鎮守「水神社」の跡地・・・吉川橋バス停そば、吉川県道の北側にあった。 河川改修により平成18年5月、現在地に移転した。
- ケ. 吉川橋・・・明治時代に徳江久次郎が作った有料の橋で、「徳江橋」と呼ばれた。 江戸時代は橋がなく、「かご場の渡し」と呼ばれた渡しがあった。

#### 2. 四条村の歴史

ア. 根郷橋と四条四軒家

根郷は開発が始まった地をさし、その四条村の再開発者が四条四軒家である。

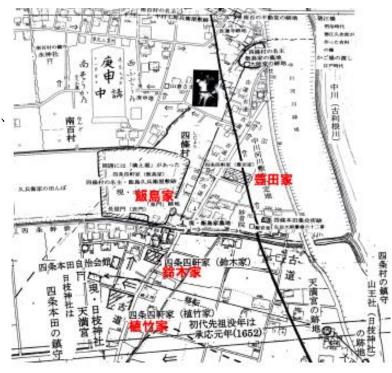
永禄10年(1567)7月の太田氏資判物に平林寺領「四条之村」が見られるので(「越谷市史三」 52頁:資料提供は秦野秀明氏)、四条村は江戸時代以前から存在していた村で、室町時代には平林寺 (現在は新座市にあるが、元は岩槻の地にあった)の領地に属していたことがわかる。江戸時代に 入ってからは四軒家がこの村を大々的に再開発したのであろう。

吉川橋西詰めの五十メートル南あたり(ここに飯島久兵衛家墓地があった)から根郷橋あたり(中川改修にともない飯島家墓地が現在この橋の北詰めあたりに移転)にかけては、「根郷」と呼ばれる小字の地域である。根郷は、再開発の村の発祥地及び中心地として、江戸時代以降、村の発展の大もとになった所と推定される。

四条村開発者(正確には再開発者)と伝わる四軒の家、「四条四軒家」がある。寛永年間(1624~

1643) 頃に再開発が始まったと思われ こ る。北から順にあげると、東町2-3 08の豊田家 (現在、すぐそばに移転)、東町2-266の飯島家 (他所に移転)、東町3-109の鈴木家、東町3-14の植竹家 (現在、すぐそばに移転)である。

四条四軒家の一つ飯島家は、寛永年間 (1624~1643) 頃に住み始め、寛文六年 (1667) 頃にできた飯島家墓地には二代目以降を祀っている。初代・三代・四代は妙音院の墓地に祀る。



四条四軒家の一つ植竹家は、現当主は十八代目の植竹安維氏である。植竹家墓所にある墓誌によると、初代先祖(慈本院秀覚禅定門)の没年は、承応元年(1652)となっている。寛永年間には既に住んでいたことがわかる。戒名に院号が見られることから、当時はかなりの格式のある家であったと推定できる。禅定門は江戸時代初期によく見られる戒名(位号)である。墓誌に刻まれた最も新しい紀年名は、延享三年(1746)となっているので、この墓誌は江戸中期に作られたものである。

しじょうほんでん ひえ

- イ. 四条本田の日枝神社・・四条村の鎮守。元は他の場所にあった。15頁参照。 きゅうべぇ
- ウ. 四条村名主飯島 久 兵衛屋敷 (表門)・・堀 (四条幹排) に沿って飯島家正門と長屋門があった。
- エ. 久兵衛屋敷跡(東門)・・・飯島家の東門が古道に沿った所にあった。
- みょうおんいん しょうかんのんぞう ず し オ.妙音院の聖観音像厨子(吉岡家)

妙音院の本尊聖観音像を入れた厨子。聖観音像は、 慶長七年(1602)に制作され、宝暦十二年(1762) に修復された。

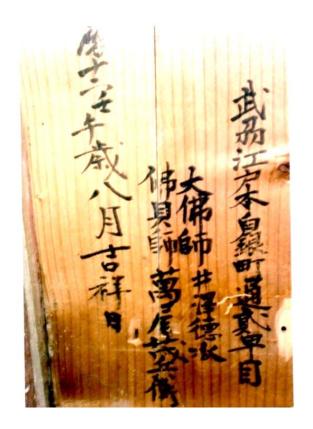
平成21年の集会所(妙音院)の解体にあたり、 この厨子が廃棄されようとした時に、吉岡勝夫氏の 申し出によって保管されることになり、補修されて 今日まで残ることになった。



みょうおんいん

- カ. 妙 音 院 跡・・江戸時代はこのあたりから四条幹排(後に造られた排水路)の南側にまで及ぶ。
- キ. 四条村の妙音院本尊の聖観音像
- ク. 四条新田の鎮守は稲荷社





聖観音像の胎内にあった木札

# 妙音院 本尊

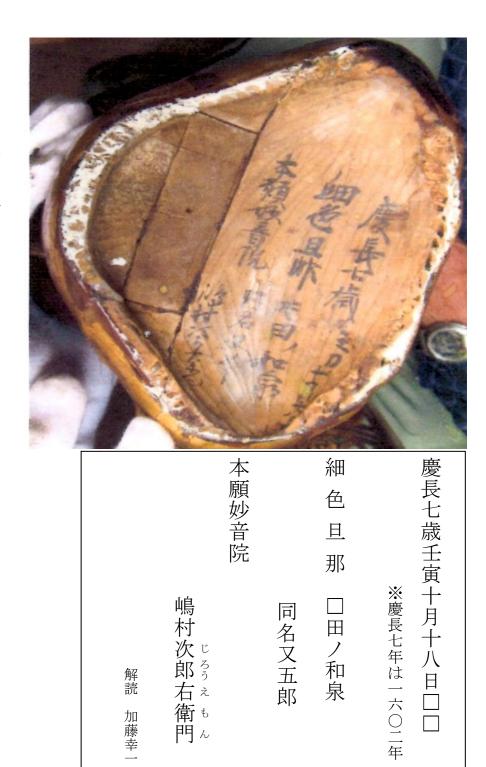
宝暦十一 ※宝暦十二年・・一七六二年一 壬 午歳八月吉祥日

解読 加藤幸一

武州江 本白銀町通弐町日本白銀町通弐町日 自め

※本白銀町・・・現在の中央区内

# 聖観音像の底部



- ※「慶長七歳壬寅」の紀年銘は、「年号(慶長)・数字(七)・年(歳)・干支(壬寅)」 の順番に書かれていて、江戸時代初期まで見られる古い書き方である。
- ※この聖観音像は、慶長七年(1602)に最初に制作され、宝暦十二年(1762)に 修復され、さらに平成二十一年に再修復されて今日に至っているのであろう。
- ※武州吉川組が中心になって始められた「弘法大師二十一箇所巡礼」の十九番にあたる 弘法大師の坐像の石像が祀られている。

# ベッぷ 別府村の歴史

ア. 別府の金剛寺・・・・太子堂にある等身大の聖徳太子像と胎内仏

・解説板より

金剛寺

所在地 越谷市東早三丁目

4

九文二章

施主

震汽

金剛寺は、真言宗の寺で山号を稲荷山慈眼寺と称し、中川(もとの利根川)をひかえた奥州旧街 道筋の古寺の一つである。本尊は、正観音菩薩である。明治期に四条村妙音院や三輪野江村の東眼寺 を合併し金剛寺と改名したといわれている。

昔、ここは、別府(又は別符)村と称されたが、別府(別符)とは荘園の追加開墾地である別符 田からきた地名ともいわれている。

当寺には嘉吉二年(1442)在銘の弥陀三尊板碑、文明十年(1478)在銘の弥陀一尊板碑がある。 また、下総国名都借村清瀧院天文十八年(1549)の印信血脈、その他江戸時代の寺檀関係古文書が 多数保存されている。境内の太子堂には、もと隣村四条村真言宗妙音院に祀られていた首(「頭部」 加藤幸一加筆)だけの太子像(胎内仏)が納められている。「新編武蔵風土記稿」によれば、江戸時 代この太子像はことに霊験あらたかということで、千住宿に移し衆人の信仰を集めたが、その後、 千住宿や四条村の住民にかなわぬことであったと覚り、再び四条村に戻したと記されている。

また金剛寺の裏手の畑地には小さな塚があるが、ここには寛文二年(1662)十月銘の二童子が刻 まれた文字庚申塔がある。昭和六十一年三月 埼玉県・越谷市

イ. 江戸時代初期の貴重な庚申塔「二童子庚申塔」

※この庚申塔は、 六年四月に本来の地の金剛寺に戻り、参道に移された。 の道路から西にちょっと奥にはいった所にあったが、 の道路と東西の道路の交差点の北西付近 (現在の駐車場) 一時は の小山の上に祀られていたものである。 「さなえ幼稚園」の西方五十メートル先の南北 (東町三一一八九) 本来は金剛寺の 0 平成二十 南北

奉供養庭中二世安樂一所面內就所 年 ※二童子が刻まれているのはとても珍しい。 石塔型式 (梵字バク)奉供養庚申二世安楽所願成就所 正面 この 青面金剛の姿は「陀羅尼集経」で説かれているが、 両脇には童子が一人ずつ、夜叉が二人ずついるとされている。 号 「陀羅尼集経」に影響されて二童子が描かれたのであろう。 駒型 寛文二年(一六六二) (西向き・高さは高) 十月十五日 無良 15 三水流 佐た门 八右门 その中で青面金剛 兵三良 □八右門 佐右門 □左ヱ門 三良衛門 八右ヱ門 □兵衛 専右ヱ門 寛文2(1662) ひさいず

ウ. 別府村の鎮守・久伊豆神社跡地・・・・江戸時代に別府村の鎮守があったところである。 金剛寺の北側にある道路沿いにある。

#### せんびき 千疋村の歴史 4.

を代

4

名乗ることになる。

せんびき せんびきや 「千疋村と千疋屋」・・千疋屋の出身地は千疋村である。

類を船 上流 大成 千 は 0 坂 Vi 現在 疋屋弁蔵と名乗って果物や野菜類を商っ 葺 未だ不明 千疋屋の起源は天保五 橋 本 の大房 ちべえ河岸」から 屋 0 立 上 誠 で遠く江戸まで運び、 0 町 流 澤永次氏) 越谷市 (現在 郎 である。 氏)。 大林 六〇  $\overline{\mathcal{O}}$ 東 日 町 m 袋 地点、 から 弁蔵 本 つの 《あずまちょう》 Ш 確 江戸に送られたとの 橋 は 証 人形町三丁目)に「水菓子安うり処」 年 千 仮説である。 大成 出 増 は 疋屋 林 な 安く産 身地 10 町 0 八三四) 砂 周 の 千疋 地 地 辺で採れ 五丁目) 直 0 起 つい 一売をし 村に 桃 であるという。 源 たの が 言 ちべえ河岸」(東方の渡し) は る新鮮な桃やその VI の河岸に集まったのであろうか 伝 た が 0 砂 0 弁蔵 地が 始まりである。 戸 え 0 井 から で なく 田 あ (千疋屋 部 る。 家そばにあ 武 桃 で 蔵 残 栽培には 地

玉

埼

玉

郡

疋

村

0)

看

板を掲げ、

弁蔵

が

出

た家

0

初代)

が

江

他

0

果

物

野

菜

元で

は

元荒

111

0

店を出 た 所 は 親父橋 《おやじばし》」 の袂である。 三代目からは大島 代次郎 江戸 E

0

の場所は

11

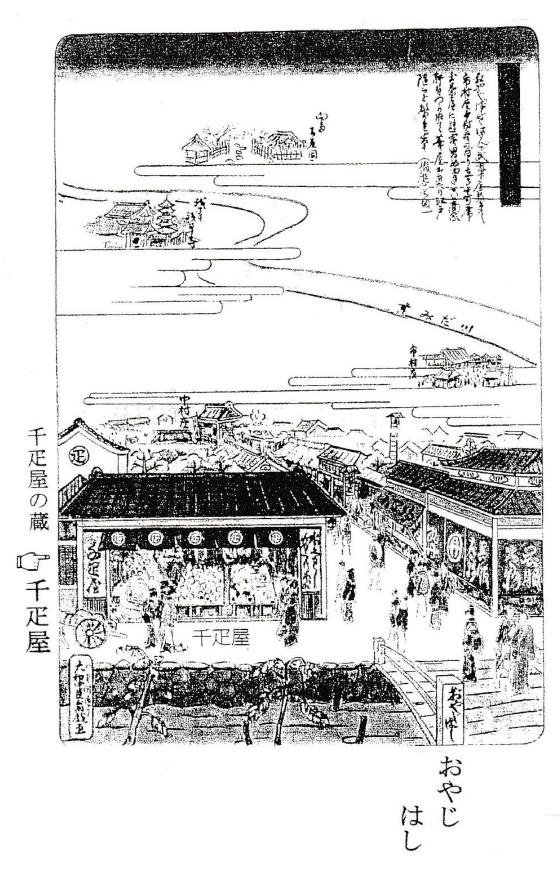
る

東

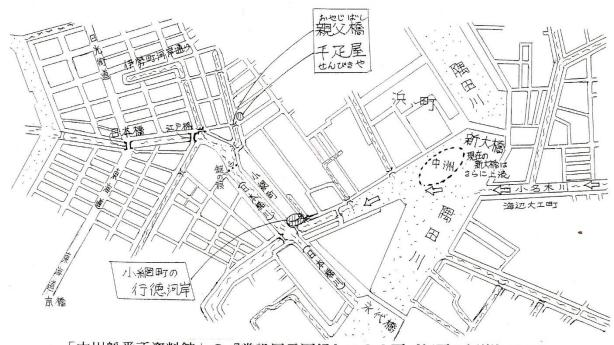
町

五

不適切



上図の千疋屋の現在の位置は、人形町駅より西方の現在のセブンイレブンあたりである。近くにある堀留公園は、おやじ橋に架かる堀に続く堀跡である。



「中川船番所資料館」の『常設展示図録』の26頁《江戸の河岸》及び 人文社出版『江戸東京散歩』の図録などを参照して作成(加藤幸一)

とうようじ

#### イ. 千疋の東陽寺跡

・解説板より

#### 世一仏板石塔婆(廿一仏板碑)

世一仏とは、比叡山に奉祀する「上七社」、「中七社」、「下七社」の山王廿一社の本地仏のことで、 平安時代に天台宗の信徒たちによって唐の天台山の地主山王にならい比叡山の守護神として祀られ たことに始まると伝えられている。

このような山王信仰を表した廿一仏板碑は現在越谷市内で八基確認されている。この東養寺跡境内の勢至堂の廿一仏板碑は天正三年(一五七五)在銘のもので、高さ百三十二センチメートル、厚さ五センチメートルで、完全な形で保存されている貴重なものである。

昭和六十一年三月

埼玉県·越谷市

せんびき

- ウ. 千疋の稲荷神社・・・千疋村の鎮守、富士塚跡あり。
  - ・解説板より

伊南理神社

所在地 越谷市東町五丁目

伊南理神社は、中川(もとの利根川)をひかえた奥州旧街道に面したもと千疋(匹)村の鎮守社で、稲荷社と称されていた。勧請年は不明であるが、早くから開けた所にあることから古社の一つと思われる。明治四十年隣村別府村の鎮守社久伊豆神社を合祀し、現在伊南理神社といい、宇賀之魂命と大己貴命の二柱を祀っている。境内には天神社の祠、賽神塔(塞神塔の誤字、加藤幸一)な

どがある。ここは柿ノ木村(現草加市)との境にあたるが、神社裏には十二塚と称された塚があり、 戦国期の戦死者を葬ったと伝えられるが、いまでもその一つが残されている。

また、神社と隣り合わせの墓地は、もと利剣山東養寺と称された真言宗の寺であった。ここには、 天正三年(一五七五)十二月銘の黄甲特供養士一仏板碑(越谷市文化財)や、元禄七年(一六九四) 十月銘の青面金剛彫像庚申塔などがある。

昭和六十一年三月

埼玉県・越谷市

#### 工. 十二塚伝説

「ここは柿ノ木村(現草加市)との境にあたるが、神社裏には十二塚と称された塚があり、戦国期の戦死者を葬ったと伝えられるが、いまでもその一つが残されている。」(上記の解説板より)





十二塚橋の欄干



十二塚橋の先に広がる柿ノ木の広大な田んぼ

(2)











千疋幹排の名残、奥(東方)は 中央は幹排の名残(奥は東方に伸びる幹排) 幹排跡にできた道路

東北東に「十二塚」の跡方面を 柿木の田園地帯の中に見る

オ. 下妻道・・・・・・江戸時代は「江戸往来」とも呼ばれ、江戸と下妻に通じる。江戸道とも呼ばれ、この江戸道は日光街道ができる前の江戸時代以前からある奥州古道と思われる。 江戸時代は、南百・四条・別府・千疋の各村々を水害から守るために、本堤と川岸に沿って作られた二重堤(外堤防)の二つの堤が見られた。この二つの堤の間に下妻道があった。

- カ. 木売の渡し・・・・・千疋村と古利根川(現・中川)対岸の木売村との渡し場があった。
- キ. 千疋村の中島・・・・中川(古利根川)の川の中に大きな中州があった。千疋村の「中島」である。吉越橋の百メートル南あたりから武蔵野線を通って木売の渡し跡まで続いていた。 大正年間の中川改修により中島は消滅した。現在の吉川市共保あたりがかつての中島である。

#### 追加「四条本田の日枝神社」

地元解説碑より

日枝神社祭神 • 天満天神祭神 (四条)

当神社の創建は明らかではないが、本祠は滋賀県大津市坂本本町に元官幣大社 日吉大社である。明治四年十一月村社日枝大神社として申立済、明治四十一年 二月字長島天満天神社及字新田伊奈利社を本社伊奈利神社に合祀す。大正十年 九月中川改修工事用地に該当のため大字長嶋へ新築移転す。

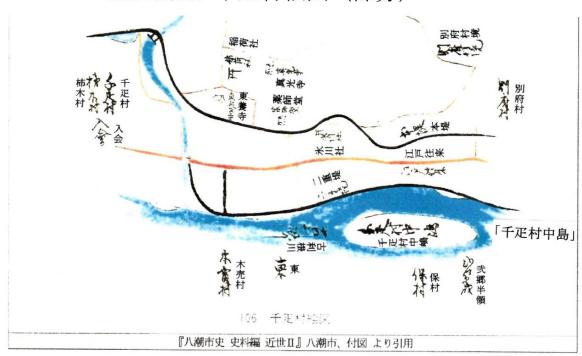
大正十二年九月関東大地震により拝殿全壊となる。昭和十九年十二月社名を 日枝神社に改称、昭和二二年十月木造鳥居「四脚」を改築竣工

昭和六十年三月中川新橋「仮称」(現「苦越橋」加藤幸一加筆)及 県道越谷一流山線新設用地に該当のため現在地東町三丁目一百番及百一番地を境内地と 定め、お社を建立し、昭和六十二年七月吉日を以て遷宮となす。

例祭日 日枝神社 七月十五日

例祭日 天満天神社 二月二十五日 昭和六十二年七月吉日建立 神社建設委員会

#### 西袋村小沢家文書 千疋村絵図 (部分)





江戸往来(下妻道)、前方は武蔵野線

川に沿った林の中にある外堤防の跡(幅は7~8メートル?)









中川(古利根川)沿いの江戸時代の千疋村の

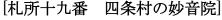
# 下妻道(江戸道)、本堤防、外堤防

#### 武州吉川組が設定した「弘法大師二十一箇所巡礼」

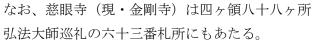
かつては武州吉川組が中心となって盛んに行なっていた弘法大師二十一箇所巡礼は、明治 三十七年(1904)に成立したと推定される。吉川から出発して吉川に戻るという時計回りの 巡礼をしていたのであろう。

越谷市では、十八番から二十番まであり、札所の十八番は慈眼寺(現・金剛寺)、十九番は四条村の妙音院、二十番は南百の宝性院である。そして最後の二十一番は古利根川を渡って吉川村の延命寺で終了する。

#### [札所十八番 別府村の慈眼寺(現・金剛寺)]









なお、妙音院は四ヶ領八十八ヶ所 弘法大師巡礼の六十二番札所にもあたる。

※四ヶ領とは、淵江領、葛西領、二合半領、八条領をさす。越谷市では、その他に 千疋の東養寺(現在、千疋南農村センター)に六十四番札所がある。

#### [札所二十番 南百の宝性院]ーーお堂に飾られた扁額ーー

南百の宝性院の東側の道路反対側にある不動堂のそばに弘法大師を祀る小さなお堂があった。 この堂の中には、弘法大師座像(石像)が祀られていた。残念ながらその石像は所在不明である。 堂の正面上部には扁額が打ち付けられていた。この扁額には弘法大師のご詠歌が書かれている。 このようなご詠歌が書かれた扁額は、現在でも他所に残されているかもしれない。

この扁額の表面に隅で書かれた文字は、長い間の風雨にさらされてきたため、残念ながら墨そのものは全く消えているのはいうまでもない。しかし、板に墨で書かれた文字の部分がわずかに浮き上がっていて解読できる文字があり、その他のかすかに浮き上がった不鮮明な文字も含めた部分的な解読は次の通りである。

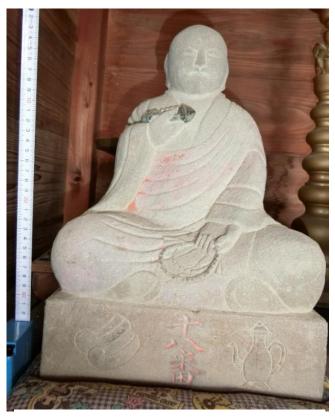
※昭和三年(戊辰) [西暦一九二八年]	戊辰口 藤井英忠昭和口 千疋	たまがわのみづ	ちかい□□の (た²)	□□□□ませとの	,	奉捧御詠歌			
に作られたものか。	藤井家の先祖である。※藤井英忠は、東町五のの					てかつて尽力していた。	この札所巡りの世話役とし	屋号「山城屋」(川口家)が	※現、吉川市吉川五の

**※**詳細はまだまだ解明されていない。いまだ不明なことが多い。武州吉川組が設定した「弘法大師 二十一箇所巡礼」に関しての資料や情報がありましたら加藤までお教えください。

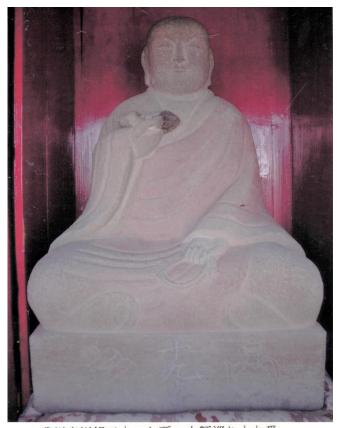
#### **〈追加**��和元年10月**〉 武州吉川組二十一ヶ所・弘法大師めぐり**(21番は吉川の延命寺)



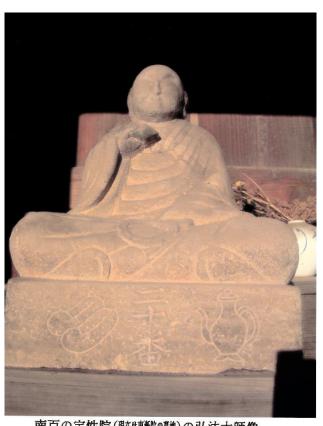
武州吉川組二十一ケ所・大師巡り一番平沼の智勝院



武州吉川組二十一ヶ所・大師巡り十八番 別府の金剛寺



武州吉川組二十一ケ所・大師巡り十九番四条の炒音院



#### 南百・四条・別府・千疋の虫追い

加藤幸一

各村の虫追いのコースについては、資料2の地図を参照願いたい。

「ほーいほい」との呼び声で松明だけをもって虫追いが行われた。鉦や太鼓はもたない。

#### 南百の虫追い

聞取り:浅見照男氏、豊田武司氏

虫追いの日:7月12日

コース:大相模地区東部 地図1・2参照

浅見照男家の北西側に集合、そこで松明に火をつけ、松明のみを持って馬捨て場まで進み、終了した。昭和 $31\sim2$ 年まで行われていた。松明は麦わらを束にして芯は竹である。

#### 四条の虫追い

聞取り:鈴木孝一氏

虫追いの日:6月18日(この時期は早すぎる、周辺の地域は7月、7月18日の誤りか)

コース:大相模地区東部 地図3・4参照

戦前まで行われた。まず最初に、村の鎮守の天神様(江戸時代は山王社)でお神酒をあげてお参りし、飯島久兵衛家(きゅうべえさま)の表門の前、現在の鈴木孝一家と四条幹排の間の十字路に集合した。 17~18軒の農家が参加した。そこで松明に火をつけた。「たかだ道」と地元で呼ばれる東西の道(北側の久兵衛家側は土地が高いが、南側は低かった)を西に進み、田んぼの中の今はなき道を南に「さすや」と呼ばれた堰枠まで進み、そこから田んぼの中の用水に沿って東へ進んで道に出た所で終了した。 帰り道は、北に進み植竹安維家の前を通って各自の家に戻った。

なお7月15日は八坂神社(天王様)のお祭りである。

#### 別府の虫追い

聞取り:深井静雄氏

昭和20年代まで行われた。

コース:大相模地区東部 地図5参照

現在のさなえ幼稚園の南側の道に松明を持って集合し、火を付けてここを出発した。こぢんまりとした 集団であるが、近くの田んぼを廻って出発した所に戻った。そのコースは今となってはわからない。

#### 千疋の虫追い

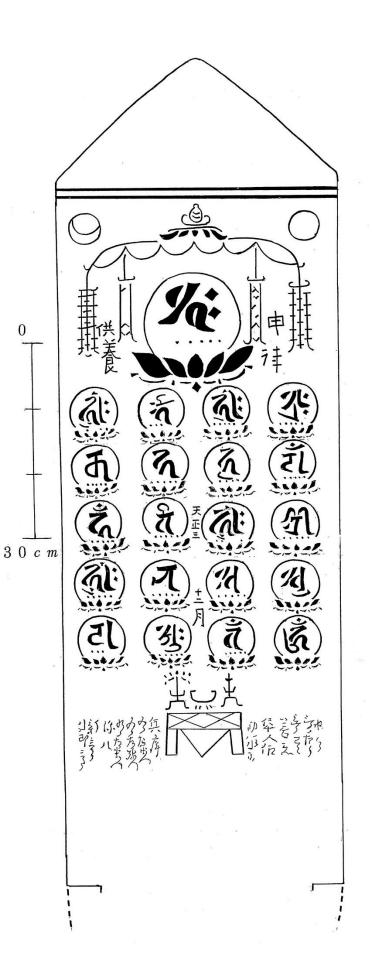
聞取り:鈴木義夫氏

コース:大相模地区東部 地図6・7参照

鎮守の稲荷社 (伊南理神社) に集まり、各自持参した松明に火をともす。40数軒が参加した。 広大な田んぼの南部のみを松明をもって廻る。稲荷社の南側を出て、今はなき道を西に進み、現在の東 埼玉道路を過ぎたあたりで終了した。昭和20年代半ばの少し前あたりまで行われていた。

※周辺の田植えの時期:木売の田植えは6月初め、粕壁は6月の末から7月の初め、南百は6月下旬

スケッチ 加藤幸一



※この板碑の下部の形は台石にはめられていて見えず不明であるが、 一般的には土中に

突き刺して立てる為、先端がスコップの先のような尖った形をしていると思われる。

# **千疋**の東養寺跡(千疋南農村センター)の二十一仏板碑 (主尊は釈迦)

右の二十一仏板碑の最下部に刻まれている文字の解読 月 日 天 蓋 釈迦如来 供養 申待 ※なお、この板碑では、 新三郎 弥八 兵口 為郎右衛門 又郎右衛門 又郎左衛門 いるが、解読不能 七行にわたって刻まれて □□三郎 前机の向かって左側 前机の向かって右側 (バク) 薬師如来(バイ) 阿弥陀如来(キリーク) 千手観音(キリーク) 虚空蔵菩薩(タラーク)文殊菩薩(マン) 文殊菩薩の梵字は「ヤン」、普賢菩薩は 普賢菩薩 地蔵菩薩 十一面観音(キャ) (私案) アン (カ ) 不動明王 如意輪観音 吉祥天 (シリー) 毘沙門天(バイ) 天正三 右の二十一仏板碑を載せた台石に刻まれた文字 四月再建 明治二十三年 立澤元吉 立澤久造 吉田万治郎 松井七五郎 立澤柳助 鈴木幸助 松井廣治郎 藤井英忠 「ウーン」、愛染明王は「ウン」、摩利支天は「ヤ」と刻まれている。 (カーン) 幹事 (キリーク) 弁財天(ス) 龍樹菩薩 聖観音菩薩 大威徳明王(キリーク)摩利支天(マ)だいいとく まりしてん J (サ) 十二月 「千疋の二十一仏板碑」のスケッチ及び解読 愛染明 王 大日如来 令和元年五月十四日 大日如来(アーク)だいにち (バン) (ウーン) 加藤 燭台

幸一

花瓶

前

香炉

机

令和元年度

越谷市立図書館主催

郷土歴史講座

# 「大相模地区東部の歴史」 見学コースの地図

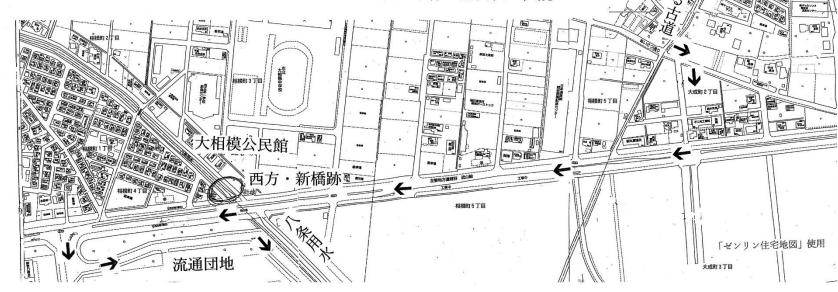
2019年5月22日(水)

5月29日(水)

# 午前の現地見学 1

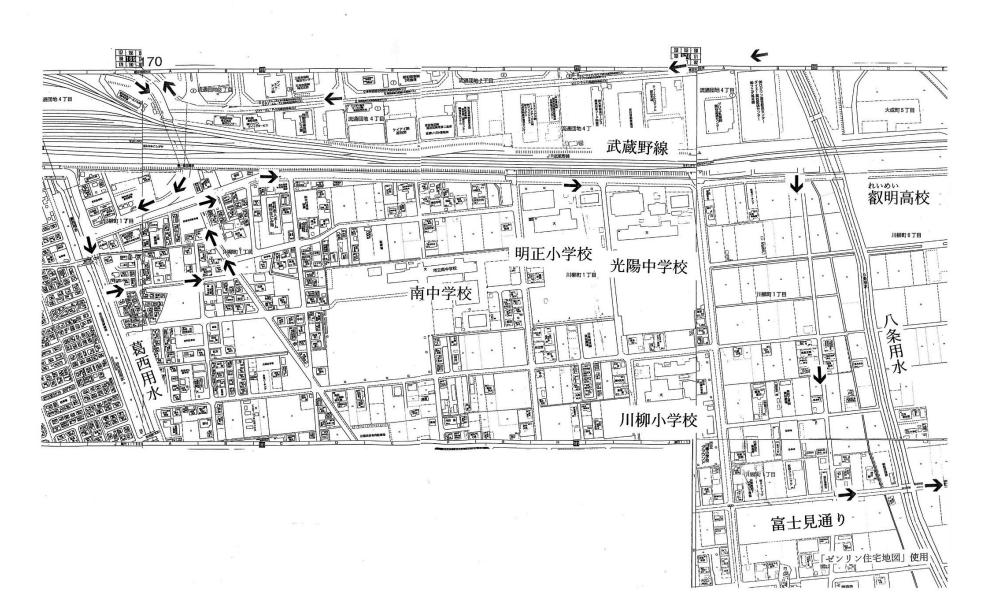
# 主な午前中の見学場所

- ・八条用水に架かる念仏橋と古道跡
- ・柿ノ木の広大な田んぼにあった十二塚伝説
- ・中川沿いにあった下妻道と本堤防・外堤防
- ・本堤防決壊によってできた押堀(おっぽり)
- ・千疋屋の発祥地、千疋村の弁蔵
- ・中川の川の中央にあった千疋村の「中島」
- ・金剛寺の聖徳太子像の胎内仏の伝説

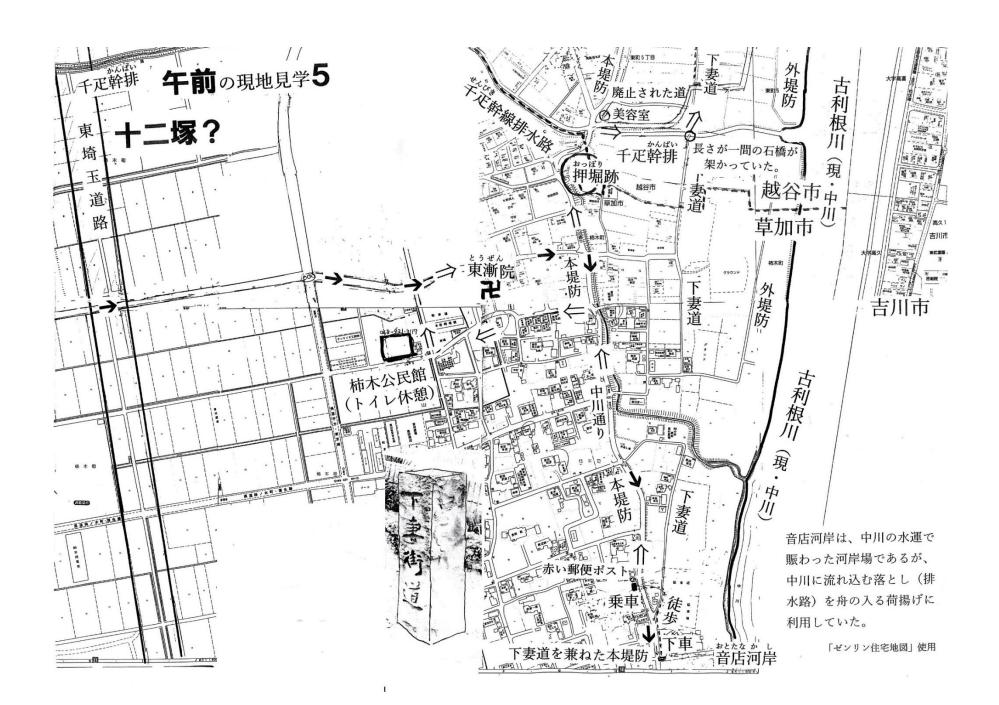


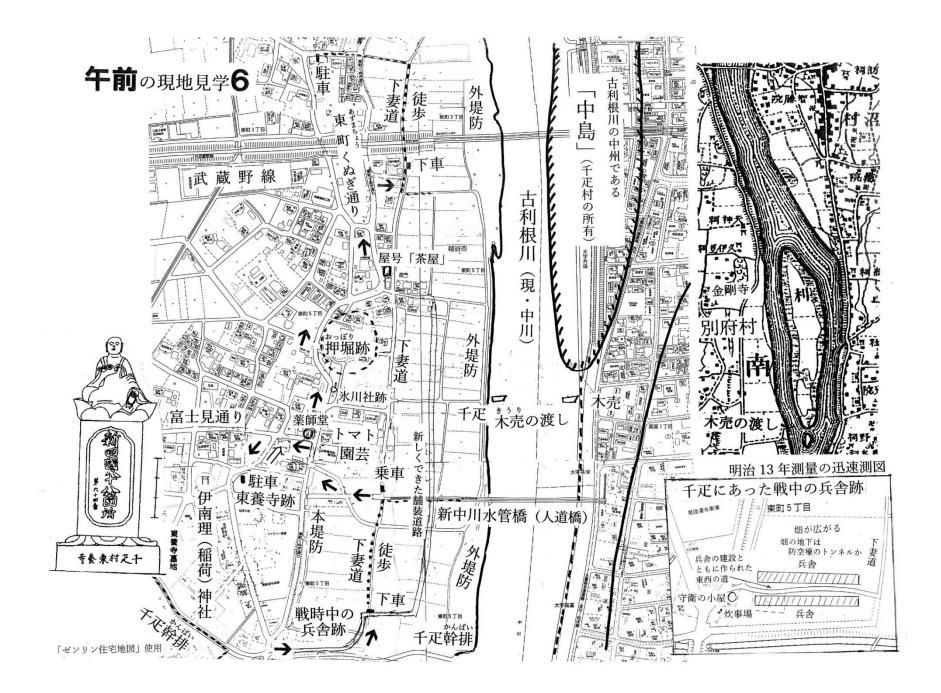


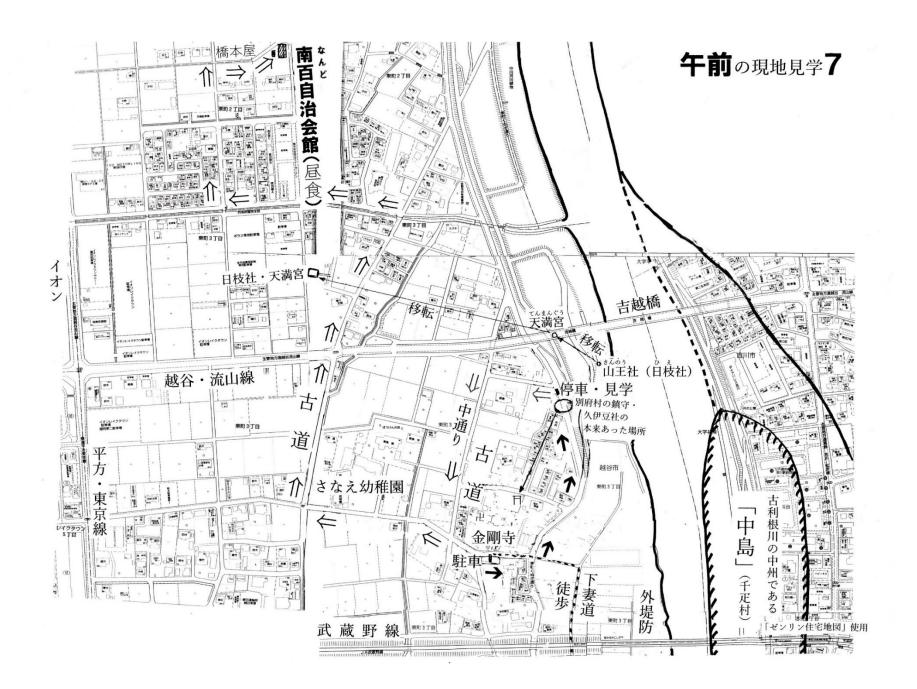
## 午前の現地見学3





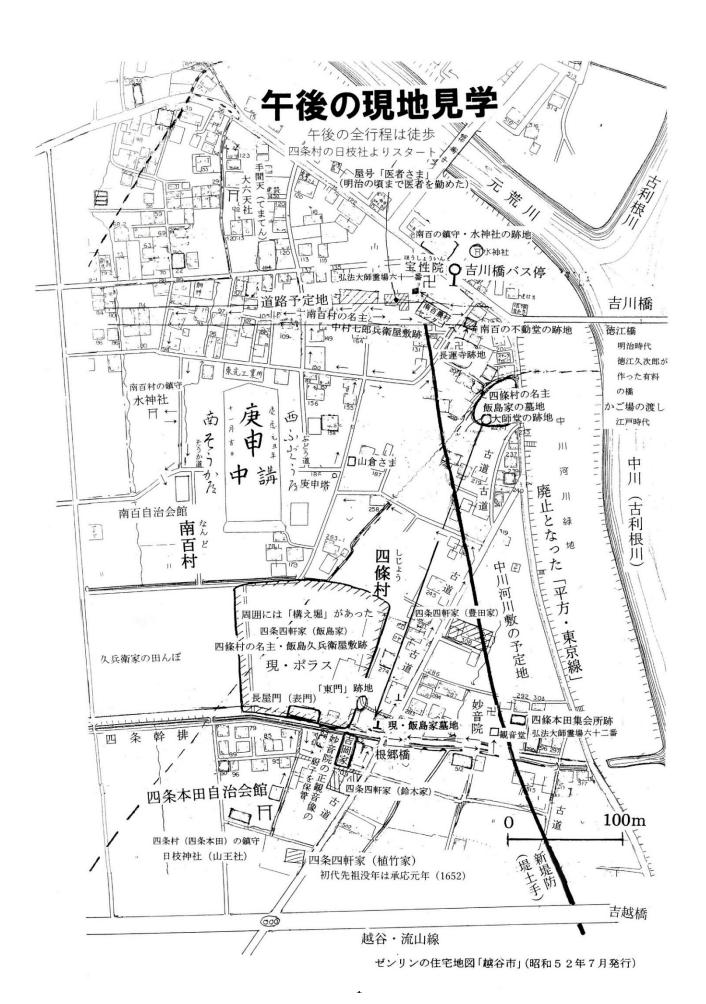






# 四条本田の日枝社と四条新田の稲荷社





### 資料1

# 八条用水に架かる 知られざる念仏橋・地蔵橋

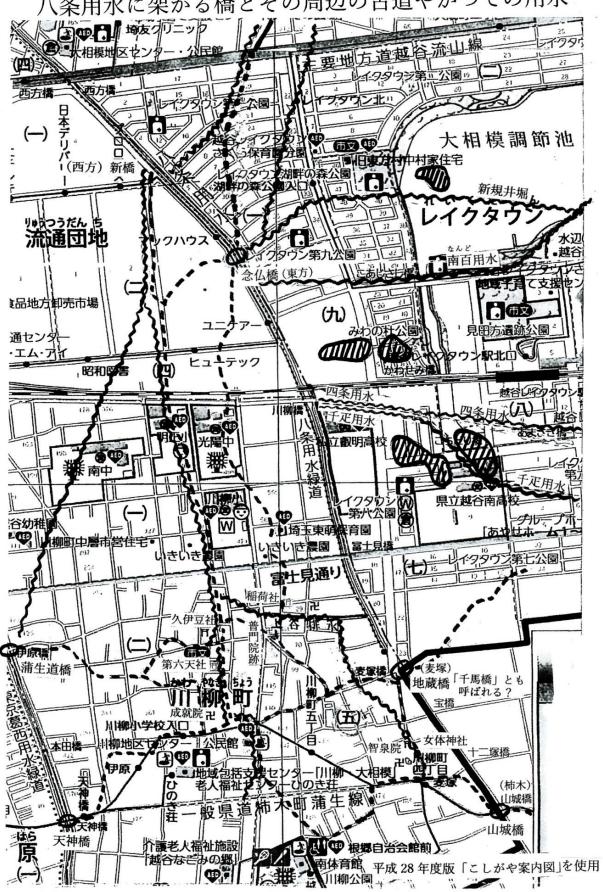
上流から

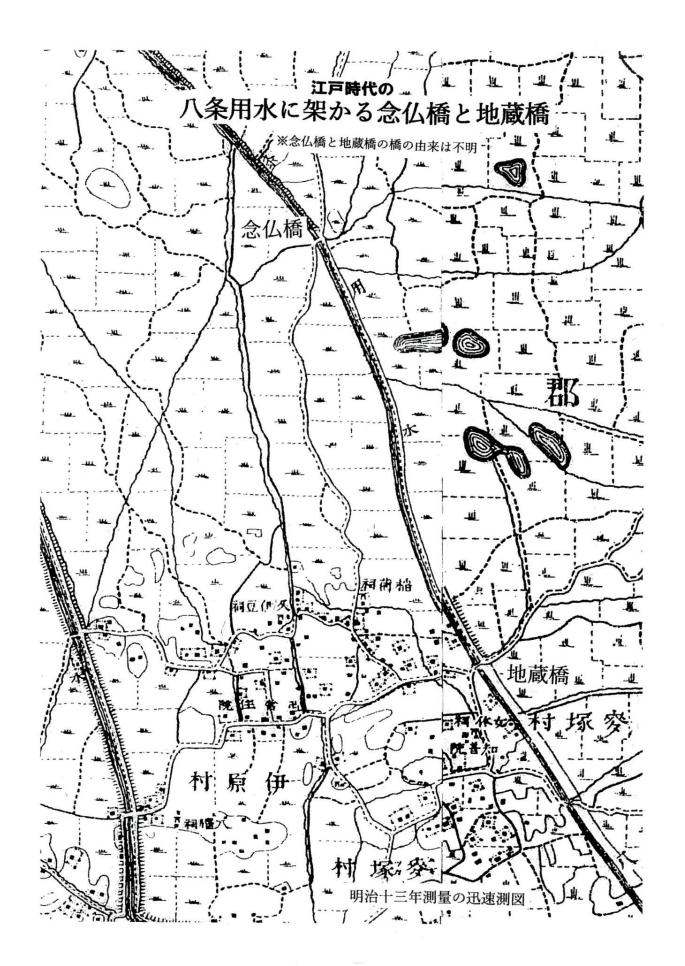
西方「閻魔堂橋」・西方「新橋」・東方「念仏橋」 麦塚「地蔵橋」・柿の木「山城橋」

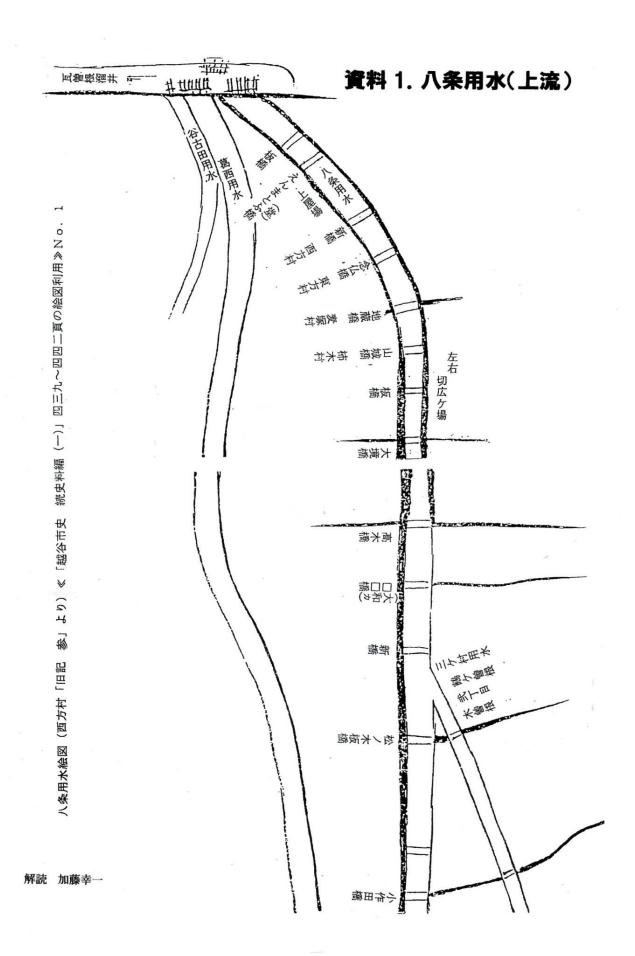
平成30年12月18日

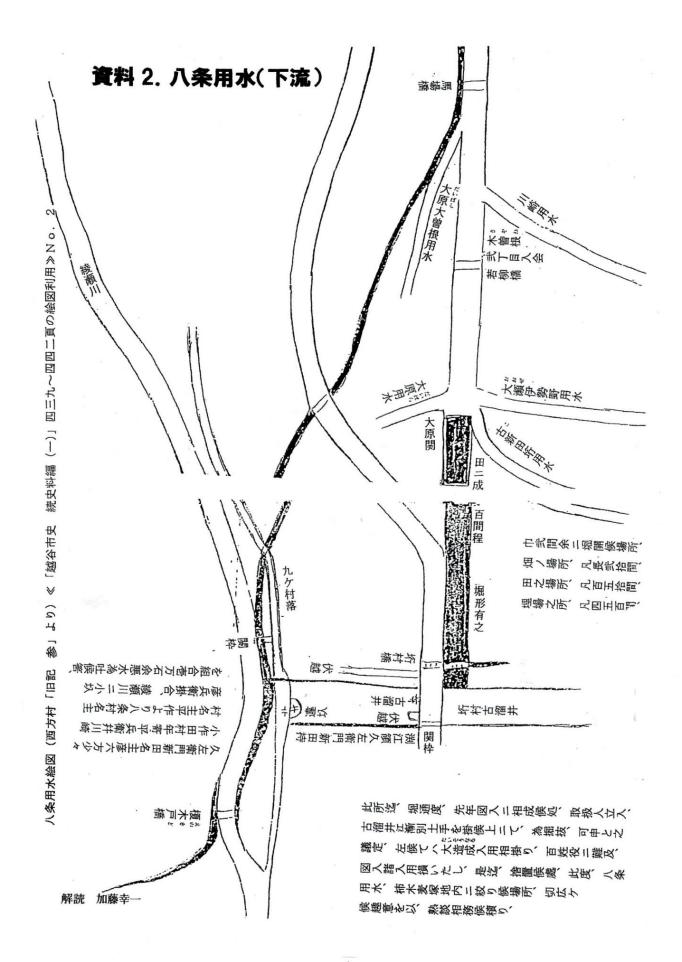
加藤幸一

八条用水に架かる橋とその周辺の古道やかつての用水









## 絵図の部 資料番号30 八条領用水路絵図 その1



解読 加藤幸一



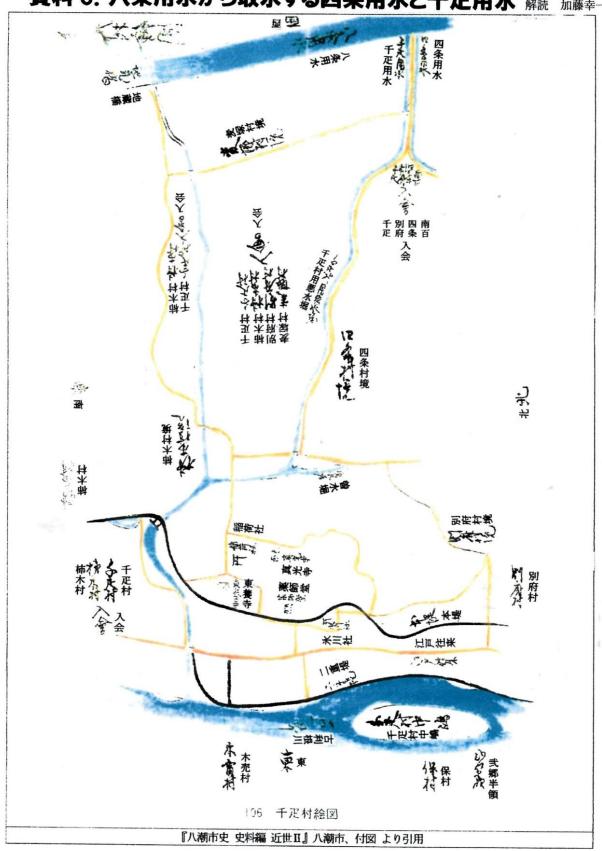
解読 加藤幸一

絵図の部 資料番号30 八条領用水路絵図 その3

## 資料 5. 八条用水(下流)

解読 加藤幸一

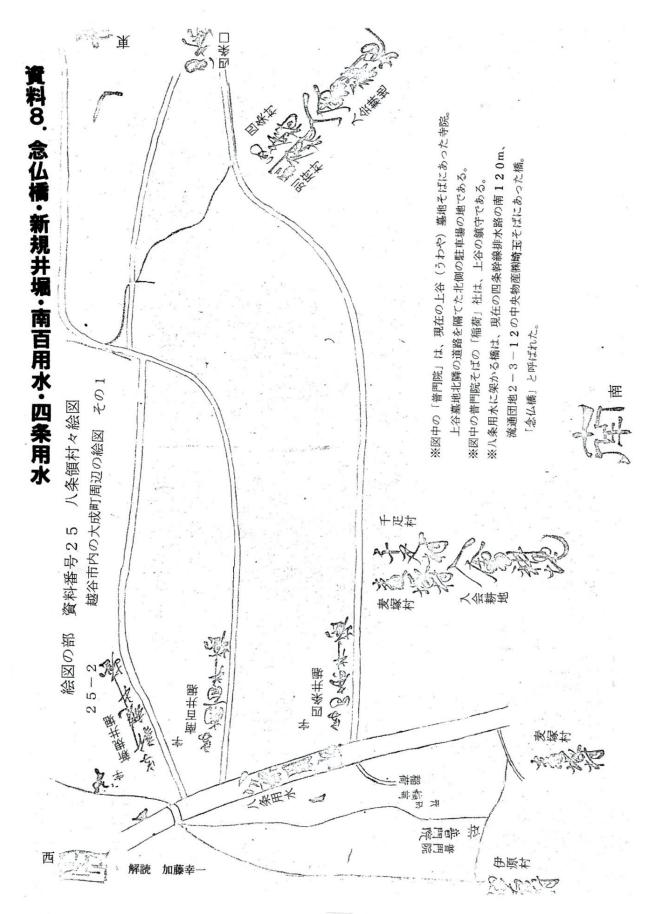
資料 6. 八条用水から取水する四条用水と千疋用水 解読 加藤幸一

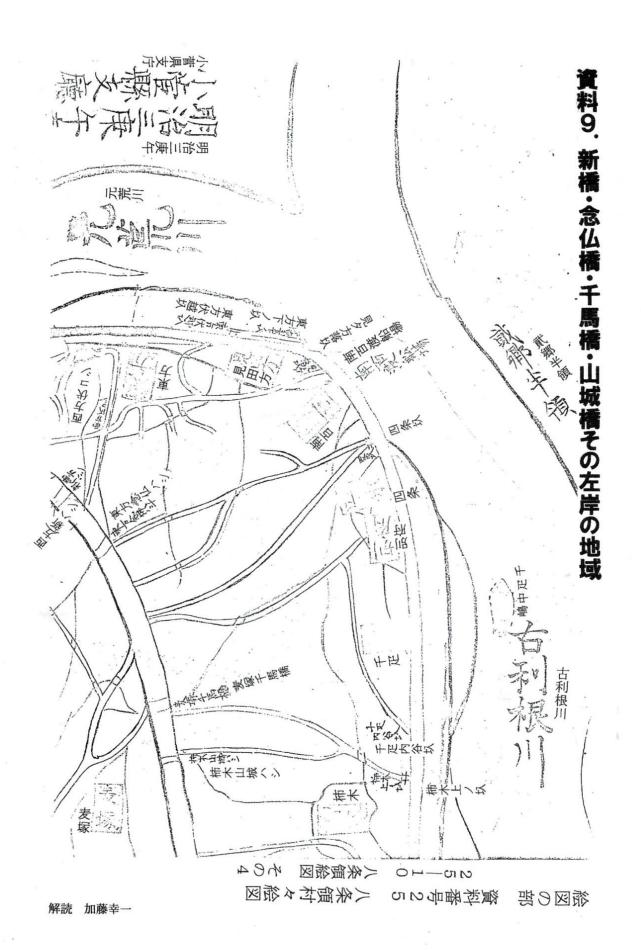


## 東方・見田方村絵図



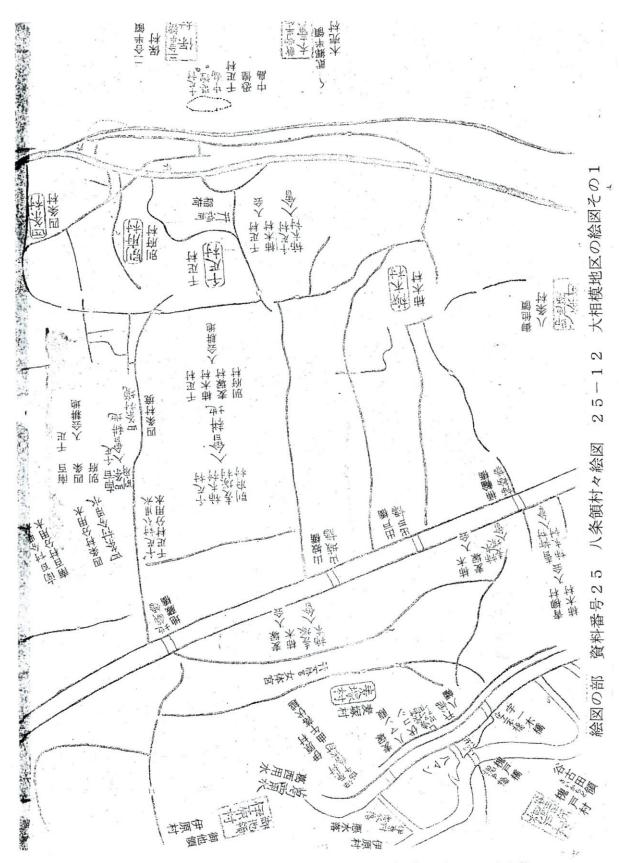
八条領西袋村名主・小沢平右衛門豊功(天明 6~安政 2 年)



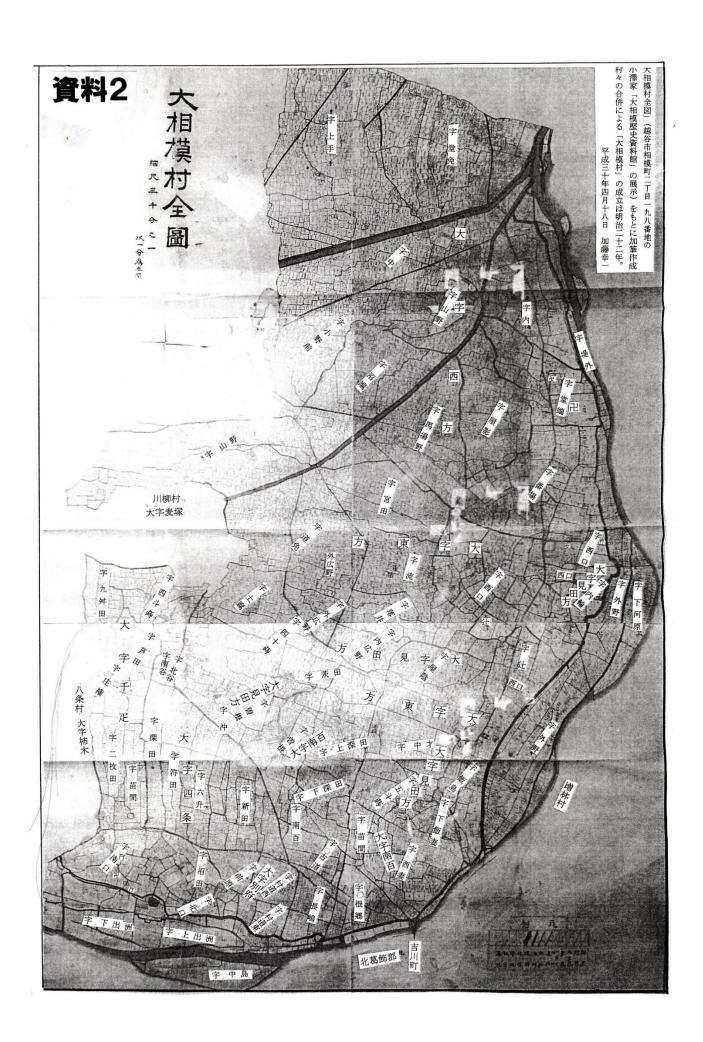


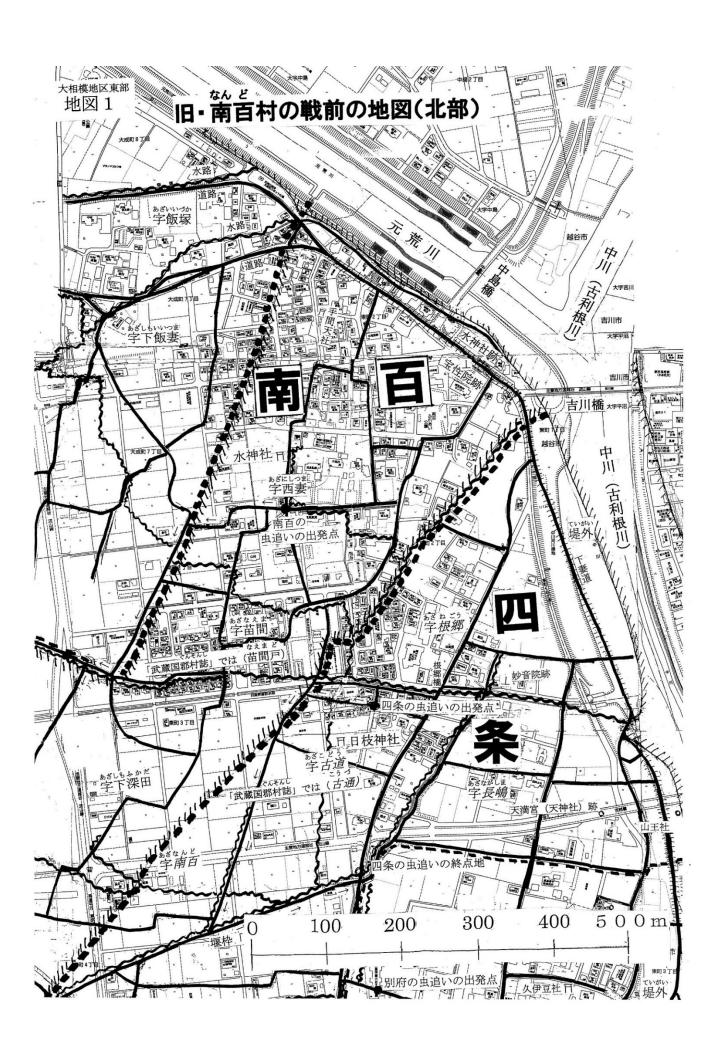
資料 10. 地蔵橋・山城橋とその右岸の地域 桔木村 计三技施 计书旗框 多學學 人条用水 -38H 東方村 なるとなる 八条領村々絵図 智泉院 1 3.74 F. 麦塚村絵図 S 田 資料番号2 村口店 新智 6 5 絵図の部 of Edwar. 伊原 草松 平角壕橋 声部 素様の個性が 子子がた 極四用 魏后 題但女 THE PROPERTY OF THE PARTY OF TH 加藤幸-伊原村熙火慈 東長軒蔵書 中村孫在衛門 飛地

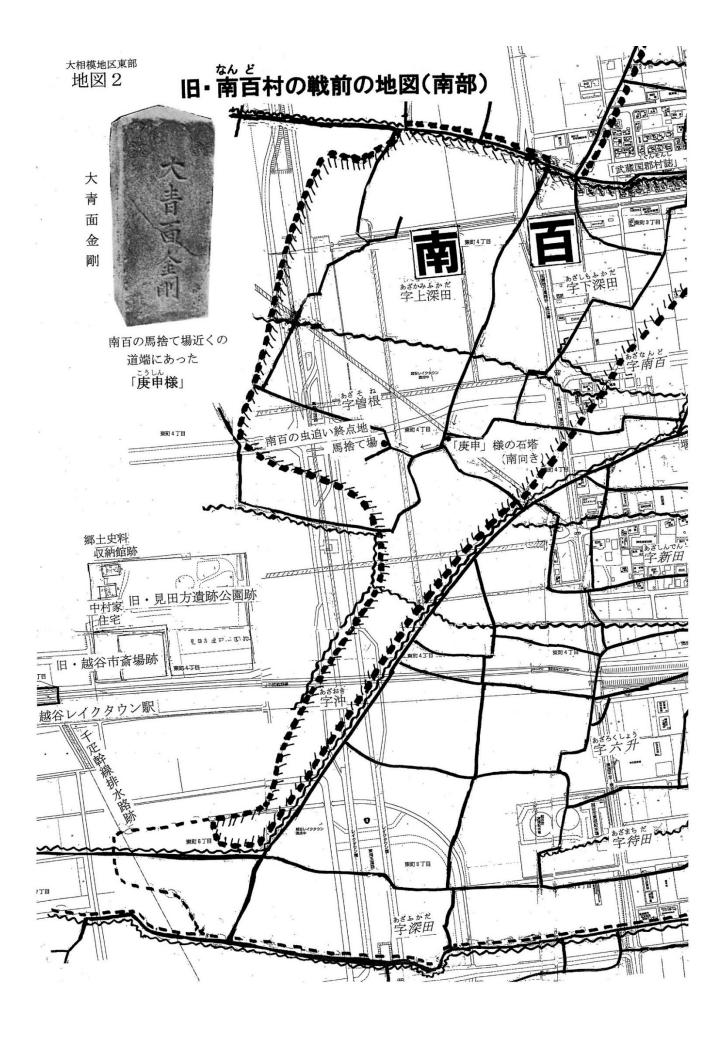
解読 加藤幸一

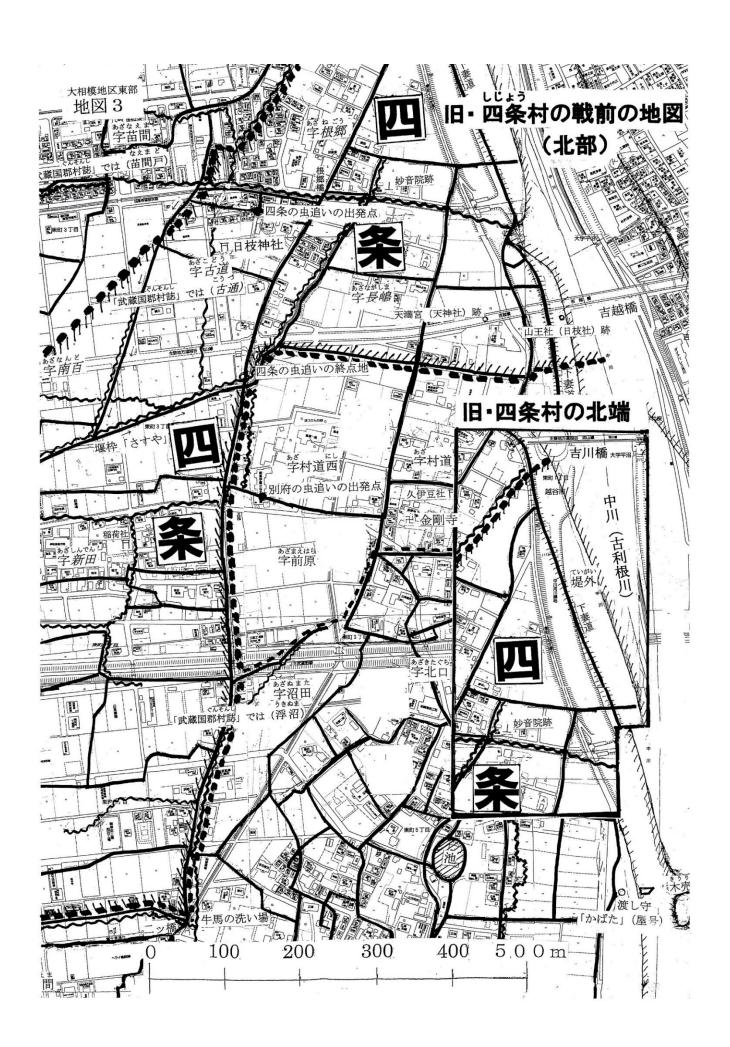


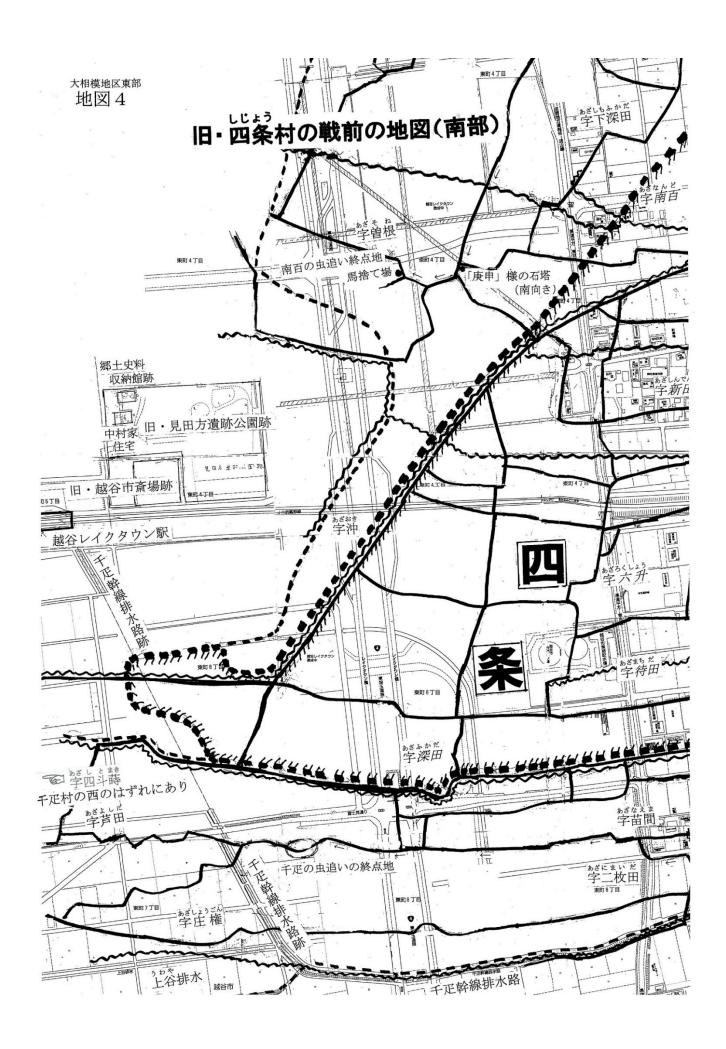
解読 加藤幸一 資料 11. 地蔵橋・山城橋周辺の地域

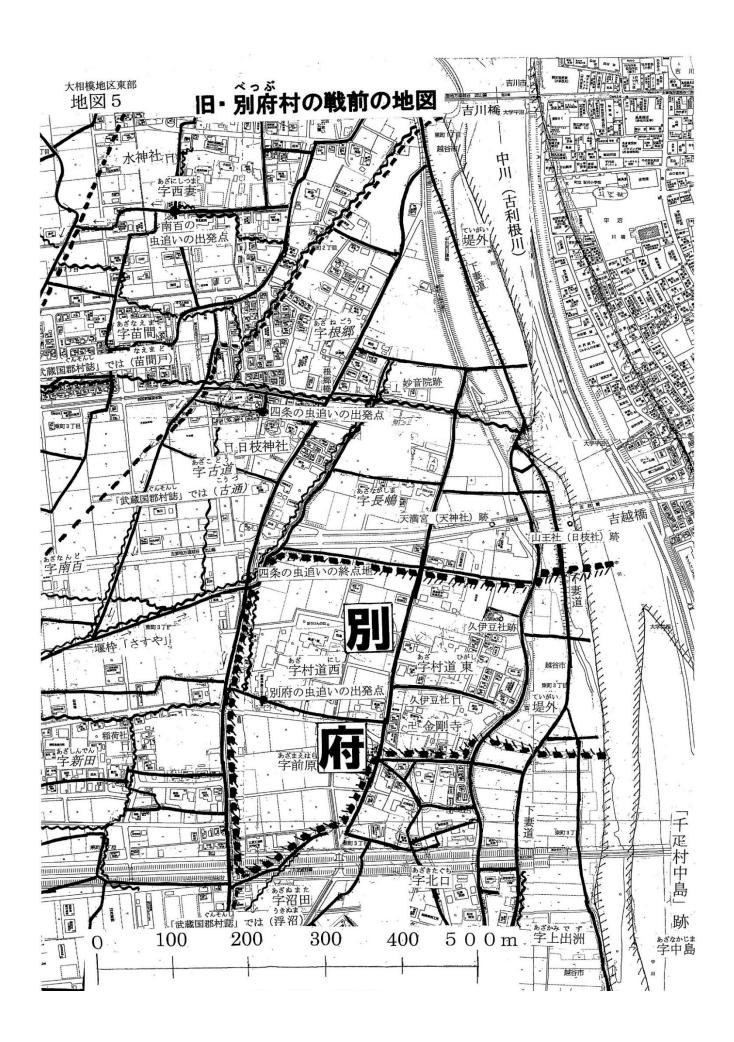


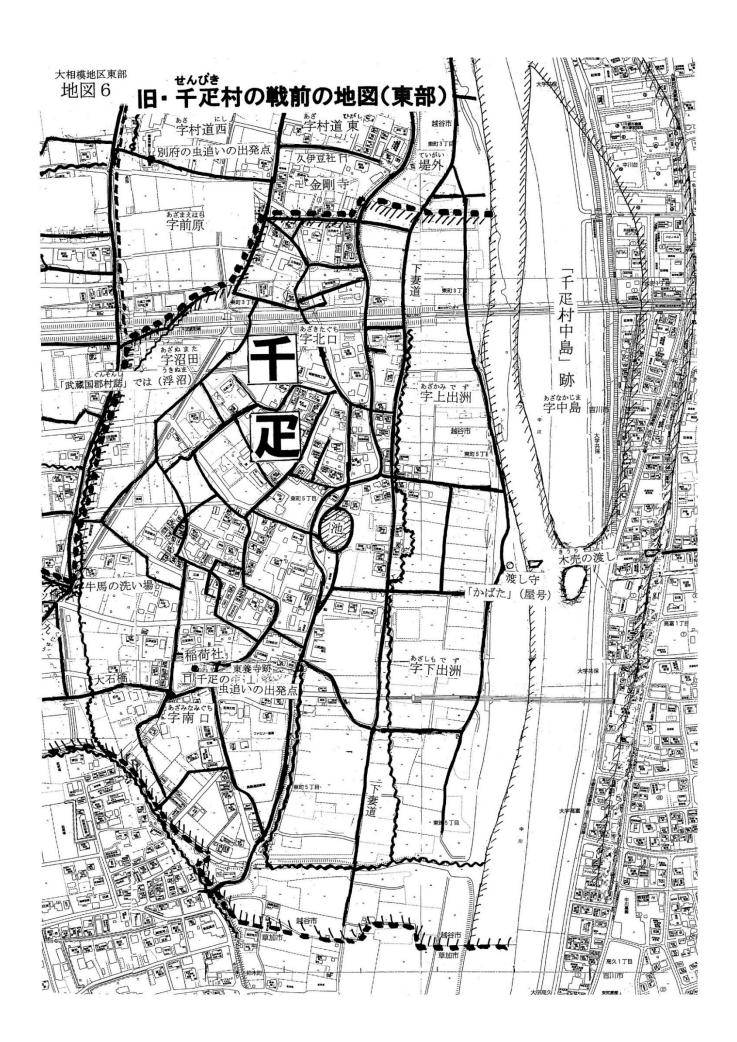


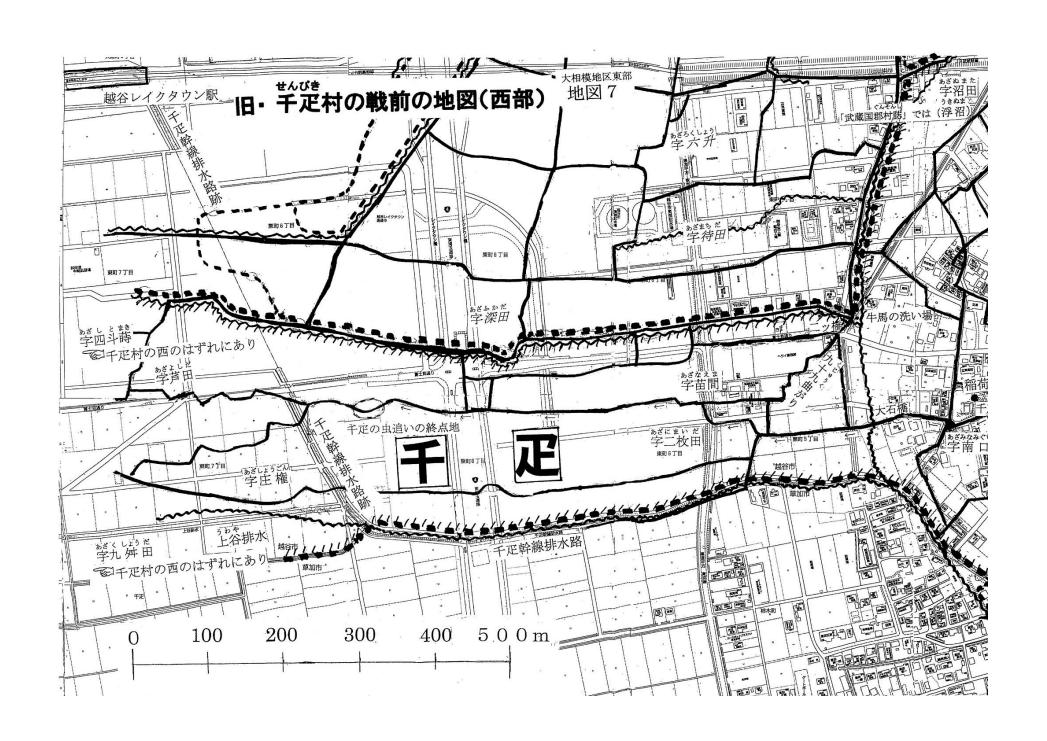












雄山閣発行の「新編武蔵風土記稿」をもとに作成し 内の文字及び※の文章は、 加藤が加筆した。

## 〇千匹村(千疋村)

※八条領に属する。

千匹村は江戸への里数(六里)及び時の領主(阿部豊後守、子孫鉄丸)等すべて前村 民家五十五、南は柿木村、北は別府村、 西は四条村、東は古利根川 (現・中川)を隔てゝ葛飾郡木売村 (柿木村) に同

なり、用水は本川俣村より引来れり、検地は寛永四年(一六二七)村松 忠 兵衛糺せり (改め直す)、

※本川俣は、 となる。 に圦(いり)を設け、 このあたりは利根川からくる水によって恩恵を受けている。 利根川右岸の村で、現在の羽生市に属する。 幸手領用水として利根川の水を取水した。 万治三年 後に上川俣に圦を増設し葛西用水 (一六六〇) にここに

高札場

古利根川 東の方を流る、 幅は四十間

稲荷社 村の鎮守なり、 柿木村萬福寺の持、かきのきむらまんぷくじ 天神社

※現在の伊奈理神社。

○水神社 真光寺の持、

東養寺 新義真言宗、 別府村慈眼寺 (現・金剛寺) の 末、 利剱山と号す、 本尊阿弥陀、

氷川社

※東養寺は、 千疋南農村センターあたりにあった。

※氷川社は、 道路と並行に南向の氷川社と南に伸びる参道があった。 平方東京線沿い西側にある立沢精米酒店の北東、道路反対側の 現在は駐車場と

なっている。

○真光寺 前と同 (慈眼寺) 末、 本尊不動

※稲荷社より真北八十メ 『八潮市史 史料編 近世Ⅱ』 あたりに真光寺があった。 の付図の絵図より位置と寺名が判明。

1

別府村も領主の姓名(阿部豊後守、子孫鉄丸) 江戸の里数(六里)等前村 (柿木村・千匹村) と異なら

民家九軒、 東西三町、 南北二町程の小村なり、 南は千匹村、 西北は四条村、 東は古利根川を界ひ、

対岸は葛飾郡保村なり、 こゝも寛永四年 (一六二七)新井平左衛門へいざえもん

検地せり、

高札場

古利根川 東の方にあり、 幅は四十間ほど、

久伊豆社 村の鎮守とす、 慈眼寺 (現・金剛寺) 持なり、

※東町三―四一一の飯島家の東側の七・八メ トル先の土手道の内側にあった。

現在は千疋の稲荷神社に合祀されている。

下総国葛飾郡名都借村清瀧院末、しもうさこくかつしかぐんなずかり せいろういんまつ

慈眼寺

新義真言宗、

稲荷山観音院実蔵坊と云ふ、

善幸、天文十八年(一五四九)八月十五日、ぜんらってんぎん 示 じゃく す、 本尊は正観音を安置せり、

稲荷社

※慈眼寺 (現・金剛寺) の本寺の 「清瀧院」 は、 地元では以前から「せいりゅう

呼ばれたのであろう。 ん」と呼ばれてきたが、 江戸時代は本来の読み方である「せいろうい んと

2

開山

※八条領に属する。

四条村は江戸よりの里数六里、用水及時の領主等前村に異ならず、 民家三十二、 南は

別府村、 西北は南百 ・見田方の二村にて、東は古利根川を隔てゝ葛飾みたかた 郡平沼村なり、爰も寛永四年  $\widehat{\phantom{a}}$ 

六二七)鈴木三太夫・井出伝左衛門等検地せり、

高札場

古利根川(村の東を流る、幅は四十間許、川に傍て堤ありょるとねがわ)(それ)の兄弟

山王社 村の鎮守、妙音院の持、 下の四社(天神社・稲荷社・弁天社・水神社)、持同じ(妙音院)、 末

社 稲荷

※江戸時代は、 天満宮と合祀して移されている。 大正年間に天満宮のある地(吉越橋陸橋の下)に、さらに現在の四条本田自治会館の南側に 現在の吉越橋の南側、 かつての土手道に沿った河川 敷の地にあった。 その後、

○天神社

※現在の四条本田自治会館の南側に山王社と合祀して祀られている。 元は、 吉越橋陸橋の真下、 石川商事の北東にあった。

○稲荷社

※四条新田のコミュニティーセンターの南側にある。

○弁天社

○水神社

妙音院 新義真言宗、別府村慈眼寺末、 猿青山観音寺と号す、 本尊正観音、

※妙音院は、 あった。 四条本田集落農村センターの墓地及び、 四条幹線排水路の右岸一帯にかけて

○太子堂 聖徳太子の自作を腹籠りとす、 頭計にて体はなしと云(太子像の胎内に太子の頭ばかり

が胎内仏として納められている)、 霊験著しく先年故ありて足立郡千住宿 へ移せしに、 当村 回

3

※太子堂は、現在は別府の金剛寺の境内に移されている。

○阿弥陀堂 妙音院の持、あみだどう

※八条領に属する。

南百村も領主及用水、 江戸への行程すべて前村(四条村)に同じ、 民家二十九、 西は見田方村、 南は

四条村、 北は元荒川を隔てゝ中島村、 東は古利根川 (現・中川) を越て葛飾郡平沼村なり、 東西四町、

南北九町、 

高札場

元荒川 北の方を流る、川幅二十間、

○古利根川 東の方を流る、 幅は四十間許、 川に傍て堤あり、

水神社 村の鎮守なり、 宝性院持、 下二社(第六天社、天神社)持同じ(宝性院)、

※元は、中島橋の東方七十メートル、吉川県道に面した地にあったが、 十七年に東町二―一六六の浅見家の西側の道路隔てた地に移転されている。 平成

○第六天社

※東町二丁目の一二〇番地にある。 地元では「手間天大六天」と呼んでいる。

○天神社

宝性院 新義真言宗、 別府村慈眼寺末、ベッポードげんじまつ 珠光山と号す、 本尊大日、

※宝性院は、 越谷駅行のバス停そばにある墓地あたりに江戸時代にあった。

○長運寺 同(慈眼寺)末、本尊不動なり、

※吉川駅行のバス停より真南七○メー トル先の地点に江戸時代にあった。